

不老会を知っていますか？

知多に木曾川の水を引くという、
久野庄太郎さんの熱い希いを実現した協力者
浜島辰雄さんにお話をうかがいました。



浜島 辰雄

はまじま たつお
元愛知用水土地改良区理事長

1916年、愛知県豊明市生まれ。1939年三重高等農林学校（現・三重大学）卒業後、南満州鉄道株式会社（調査部）に入社。同年に徴兵され、北支（中国華北地方）勤務などを経て名古屋陸軍幼年学校教官に就任。復員後、1948年安城農林学校教官時代に久野庄太郎と出会い、愛知用水の実現に寄与する。その後、韓国、イラン、アフガニスタンほか、途上国の開発計画にも携わった。不老会名誉会長。

不老会40周年記念誌

愛知用水のことに關しては『愛知用水史』（愛知県・愛知用水公団1968）や愛知用水土地改良区誌（愛知用水土地改良区2005）をはじめとする多くの資料や研究書が発行されました。私はその都度、編纂や資料提供に協力してきましたが、時間や紙幅の制約があつて、想いどおりの意図が表現しきれない悔やみがありました。

特に、盟友としてともに働いた久野庄太郎さんや同志の方々の表現には物足りなさを感じてきました。多くの方がご成願（願が成就したという意味で、不老会では亡くなったことを表わす言葉）された今、残された者の使命として、新しい世紀の道しるべを書き残したいという思いにかられ、本にまともておりました。自費出版を、と考えていた

ところ、望外の光榮に浴し、2005年（平成17）財団法人不老会創立40周年の記念誌としての発行を許されました。

内蒙古での経験

私は1939年（昭和14）4月に南満州鉄道株式会社に入社して、調査部の仕事で内蒙古地区のダルのハン（の牧場に赴任しました。新品種の綿羊と肉牛の改良、増殖のため草資源の調査を担当したので

す。 当時はノモンハンで日本の関東軍と共同作戦を行なっていた内蒙古軍が、ソ連軍と戦闘態勢になつて追い散らされ、洪水の中を逃げ惑うという治安の悪い状況にありました。10万頭の綿羊と1万頭の肉牛がいたんですが、内蒙古軍の敗残兵が牛を食べてしまうのには閉口しました。

現在の中華人民共和国黒龍江省にある大興安嶺（ターシアンリン）の南の大草原の草資源は、その年の雨量に支配されるので、第一松花江（中華人民共和国の東北部を北東流する河川。別名スンガリー川）の上流に広域な堰堤をつくり、遼河（同・河北省、内蒙古自治区、吉林省、遼寧省を流れ、渤海に注ぐ大河）方面に面状に広く導水することで草資源の改良に役立つと考えました。そこで、白城子（現在の吉林省の白城）上流からシラムリン川下流の流域を通過して、開呂、通遼（ピンイン）の方向に導水させる案を考えました。

この案をペーパーロケーション（測量を行わずに、等高線の入った地形平面図から高さを読み取りながら、断面図をつくる手法）して論文に仕上げました。これが後ほど、愛知用水計画の導水路図「愛知用水概要図」作成に大いに役立つことになったのです。

愛知用水運動への思い入れ

知多の農家の者なら、誰でも水への悲願がありました。同じ志を持つ久野庄太郎さんとの劇的な出会いがあつて、私は自分のできるすべてを賭けて愛知用水運動に傾倒していきました。

そのため昼間は安城農林高校の教師として働き、夜は導水路地図

の作成に明け暮れました。連日連夜の作業に妻は呆れて「そんな地図は燃やしてしまう」といって、喧嘩になったほどでした。 会社が破産したことを契機に、久野さんは「愛知用水運動から手を引くように」と言われてしまいましたが、その宣告を受けたときにも、傷心の久野さんが京都の一燈園を訪ねていったときにも、私はそばにおりました。15歳の年の差を補い合う無二の同志であつたと思ひます。

一燈園（いっとうえん） 1904年（明治37）、西田天香（にじだてんこう）によって京都府山科区四ノ宮に設立された新宗教団体。正式には、財団法人懺悔奉仕光泉林で宗教法人格は持たない。同人と呼ばれる修行者は、「自然になつた生活をすれば、人は何物をも所有しないでも、また働きを金に換えないでも、許されて生かされる」という信条のもとに、つねに懺悔の心を持って、無所有奉仕の生活を行っている。

志の結実、不老会

一度は傷ついた久野さんですが、一燈園で悟りを開いて立ち直つた。それでも愛知用水の工事中に亡くなった56人の方のことを、ずっと気に病んでいました。次々と増える犠牲者を悼んで、自分を人柱に埋めてもらおうかとまで思い詰めていた時期もあります。工事現場の土を集めて、常滑の柴山青風先生に500体の観音像をつくって



もらい、犠牲の出るたびに持って
 いて弔っていました。

愛知用水が通水した1961年
 (昭和36)の夏に、平素から指導を
 仰いでいる名古屋大学総長の勝沼
 精蔵先生のところにお礼に行つて
 いますが、そこでもまた、犠牲に
 なられた方々への想いをお話しし
 たのです。そのときに勝沼先生は、
 「人の命を救う医者を養成するの
 に、解剖のための献体が足りずに
 困っている」というお話をされま
 した。久野さんは、献体をするこ
 とで犠牲者への想いが少しでも晴

れるのではないかと思われたの
 でしよう、すぐさま献体を申し出
 家族や友人、周りの人間にも話さ
 れたのです。

こうして翌年の1月21日には、
 名古屋駅前の愛知県中小企業セン
 ター4階の会議室において不老会
 の設立総会が開かれることになり
 ました。わずか半年足らずで20
 0名を超える賛同者がありました。

会員第1号は久野さんご自身、
 第2号は奥さんのはなさん、第3
 号は私です。

設立総会で久野さんが発表され

た「不老会五つの願い」は、久野
 さんの生き方そのものであり、愛
 知用水運動を通じて私たちが追求
 してきた希いのエッセンスでもあ
 ります。

- 1 私どもは感謝のために、この
 会員になる。
- 2 私どもは不老長寿を得るため
 に、この会員になる。
- 3 私どもは希望に生きるために、
 この会員になる。
- 4 私どもは医学の進歩のために、
 この会員になる。
- 5 私どもは平和をこい願うため

に、この会員になる。

また、知多市に愛知用水調整池
 としてつくられた佐布里池のほと
 りの丘に愛知用水神社が建てられ、
 愛知用水の工事で亡くなられた犠
 牲者が祀られています。佐布里池
 建設の際に大反対した鱈部好一さ
 んも、佐布里、阿久比地域を回つ
 て不老会の普及に尽力してくれま
 した。一人で300人以上の人の
 を入会させています。

2010年(平成22)6月1日現
 在の登録会員数は2万1084名、
 生存会員数6971名、既献体者

数8234名、既献眼者数281
 5名。1997年(平成9)4月8
 日、久野庄太郎さんも天寿を全う
 され、成願されました。

不老会は「次の世代の幸福を願
 う」ことを目的としており、これ
 は私たちが愛知用水に願ったこと
 と同じ。愛知用水は不老会にとつ
 ての源流なのです。

